

ほんのもり

12月

No.8 2024.12

富岡中学校図書館
学校司書 村木加津



～富岡中図書館だより～

もうすぐ
クリスマス

『キャロリング』 有川浩/著

クリスマスに倒産が決まった子供服メーカーの社員・大和俊介。同僚で元恋人の柊子に秘かな思いを残していた。そんな二人を頼ってきたのは、会社に併設された学童に通う小学生の航平。両親の離婚を止めたいという航平の願いを叶えるため、彼らは別居中の航平の父親を訪ねることに……。クリスマスにもたらされるささやかな奇跡の連鎖を描く感動の物語。テレビドラマにもなりました。

本を読もう！



* 本の内容紹介は各出版社商品紹介などから抜粋

*** 図書館からのお知らせ ***

冬休み貸し出しやってます！！

ひとり 10冊まで

返却日 1月10日(金)



★富岡中図書館は 12月20日(金)まで開館しています。



人権ってなあに？

—12月4日～10日までは人権週間—

「誰か」のこと じゃない。



人権週間

12月4日～10日

人権週間とは・・・

国際連合は、1948年第3回総会で世界人権宣言が採択されたのを記念し、1950年第5回総会において、世界人権宣言が採択された12月10日を人権デーと定めるとともに、すべての加盟国にこれを記念する行事を実施するよう呼びかけています。

法務省と全国人権擁護委員連合会は、世界人権宣言が採択された翌年の1949年から毎年12月10日の人権デーを最終日とする1週間を人権週間と定め、人権尊重思想の普及高揚のための啓発活動を全国的に展開しています。 『千葉県庁ホームページより』



今月のオスス+



12月4日から10日まで人権週間です。富岡中図書館には人権に関する本がたくさんあります。ぜひ、この冬休みに読んで人権について考えてみてください。



人権に関する絵本を読んでみよう！！



『みえるとかみえないとか』ヨシタケシンスケ/作

「ぼく」は宇宙飛行士。いろんな星を調査するのが仕事です。ある星で出会ったのは前にも後ろにも目がある宇宙人。「ぼく」が後ろを見えないことを知ると可哀想に思って、ものすごく気を遣ってくれるので変な気持ちになってしまいます。この絵本では、見える人と見えない人の世界の感じ方の違いを描きます。

みんなが、感じて「当たり前」を見直す機会を与えてくれます。

* 本の内容紹介は各出版社商品紹介などから抜粋

『はじめにきいてね』

ジュリエット・クレア・ベル 文

くすぐるのが得意なちょちょモンキーは、いつもみんなを笑わせている。でもある日、「くすぐらないで！」と友だちに言われて、みんなの気持ちを聞いてみる。これからどうしたらいいかを考えて、モンキーが出した答えは？

新しく入った本で～す



『かぞえきれない星の、その次の星』 重松清/著

出張先から帰れなくなり、幼い娘と毎日画面越しに会話する父親。いじめを見て見ぬふりしていたことを、偶然出会ったおじさんに言い当てられてしまった中学生。ままならない現実を生きる人たちのさみしさを、ちょっとフシギなやさしさで包み込む、11の物語。

『タスキ彼方』 額賀滂/著

新米駅伝監督・成竹と学生ナンバーワンランナー榊原は、戦時下に箱根駅伝開催に尽力したとある大学生の日記を受け取った。箱根を走ること命を懸けて挑み敢っていった青年たちの熱い想い青春を令和の現代と交錯させて描く。

『今日もピアノ・ピアーノ』 有本綾/著

お母さんにゲームを没収されてしまった、小学6年生の海斗。うかない気持ちで塾に向かう途中、駅にあるピアノで美しい音をつむぐおじいさんに出会う。「このピアノは、だれが弾いてもいいみたいだよ。」翌日も、海斗はそのおじいさんとピアノが気になり、駅に向かうことに。学校や塾でいそがしい現代の小中学生におくる、小さな「変化」の物語。

『キミの知らない恋の物語』 トキメク～はじめての恋 中田永一他/著

はじめて恋に落ちる。その時の、ときめき、喜び、切なさ、苦しさ…。主人公たちのみずみずしい感情を体験してください。大人気作家の作品から、恋愛ショートストーリーの傑作を集めました。